



令和2年度

第5回 吹田市地域公共交通会議

**第4回 吹田市地域公共交通会議(書面開催)
の意見及び市の考え方**

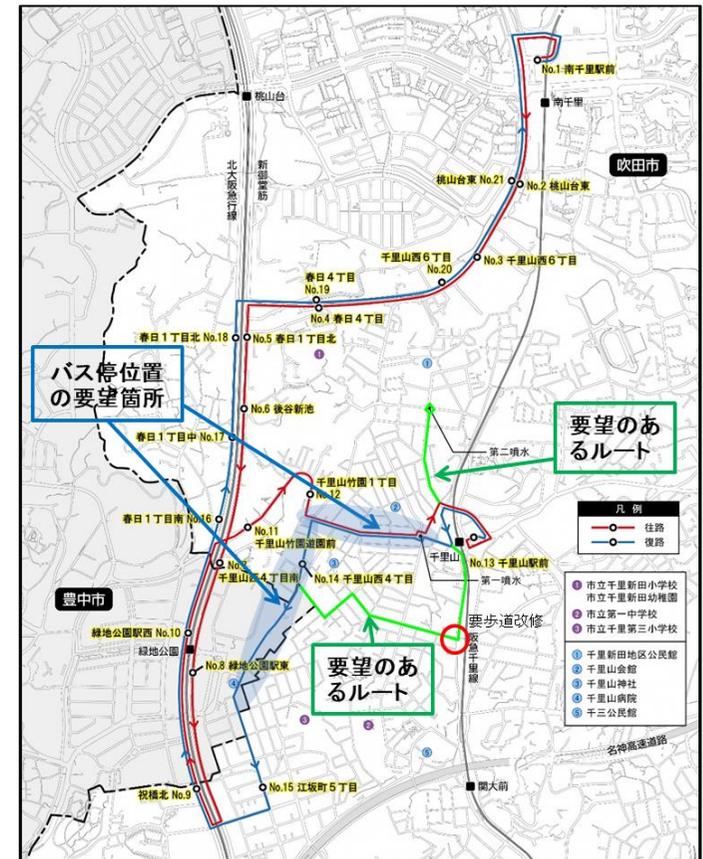
吹田市

1. バス及びバス停について

- ・試験運行期間中にバス停間の距離を縮め、需要の前後比較ができるように、是非、協議を進めていただきたい
- ・地域バスにしては、停留所間が長いところ、特にNO12～NO13、NO14～NO15は、ずっと気になるところです。乗車率にも影響します。

回答

- ・住民から要望のある右図の箇所については、試験運行を行う中で、地域公共交通会議に諮りながら検討してまいります。



1. バス及びバス停留所について

- ・バス停へのアクセスのための歩道の状況についてもご確認いただき、必要に応じて安全性の向上や歩行時の負荷低減の検討をしていただきたい
- ・千里丘と、今回の千里山のルートでは、地域性が違うことを以前にも述べています。住民説明会でも、千里山ルートは「福祉バス」の視点を入れての要望が多くあったと思います。配慮がほしいところです。
- ・バス停の位置について交差点や横断歩道付近、坂の頂上付近、勾配の急な坂道等、交通の安全と円滑を阻害するおそれがない場所を選定しなければならない。

回 答

- ・バス停へのアクセスのための歩道等の状況について、確認し必要に応じて安全性の向上を図ってまいります。
- ・福祉バスの視点としては、本コミュニティバスはノンステップバス対応となり、どなたでもご乗車いただけます。
- ・バス停の位置については、各関係機関と協議し交通の安全と円滑を阻害するおそれがない場所に設置してまいります。

2. 運行ダイヤについて

- ・住民説明会では、運行時刻に関するご意見がなかったが、現状では特に問題視されていないとの認識でよいか。
- ・ダイヤに余裕がない。便数を減らす選択もあるのではないか。(パターンダイヤは分かりやすいが安全優先)

回 答

- ・住民説明会では、詳細な運行ダイヤ(案)がないのはなぜかという意見がありました。住民説明会では、運行間隔:1周60分程度、運行便数:11便、運行時間8時台~19時台と提示しておりましたが、それについての意見は特にありませんでした。
- ・本バスは、起点停留所、終点停留所がありません。そのため、便毎に5分のインターバルを設け運行する計画です。定時制や運行の安全面については、事業者選定の際に留意してまいります。
(既存のすいすいバスでは、便毎に5分のインターバルで運行)

3. 運賃について

- ・「運賃200円を、一区間の場合は100円にしてほしい」の声が多かったと記憶します。坂道の多い地域性から、一区間の乗車利用者が多いことも想像出来ますし、これは乗車率にも影響してきます。子ども・身障者は100円に倣って、「年齢75歳以上の高齢者」に限定するなど、一工夫して、一区間または全区間100円など、実現してほしいです。

回 答

- ・既存のすいすいバス及び既存のバス会社の料金との公平性の観点からも本コミュニティバスの運賃は200円が妥当と考えております。

4. 試験運行の指標について

- ・「資料2, 13ページ『試験運行の指標について』」ここでも、すいすいバスの運行基準の目安を持ってきていますが、「収支率30%、乗車率60%」は厳しいです。
- ・実証実験時に、収支率・乗車率をだいたいの所で算出したのであれば教えてください。
- ・収支率30%、乗車率60%は「且つ」なのか「又は」なのか明示した方が良いと思います。

回 答

- ・『収支率30%かつ乗車率60%』は、すいすいバス導入時に設定した「コミュニティバス継続・見直し基準」です。千里山地区のコミュニティバスは、本基準を目安に試験運行してまいります。
- ・実証実験のアンケート設問の「200円で運行する場合利用するか」の結果から利用見込みを算出すると、収支率は3割程度になる見込みです。

5. サービス面について

- ・住民意見で料金の質問も多いグランドパス65の利用が考えられるが、阪急バスが受託することは決まっていない。そのため、受託事業者の要件に、年間パスの発行の検討や阪急バスの乗継割引などの交渉を行うことなどを要件としてはと思います。
- ・公平性の観点からすいすいバスへも導入されているサービスも同等にする必要があります。運行事業者次第ということもありますが、利用者目線で、不公平感が生じないようなサービス提供が必要だと思います。

回 答

- ・すいすいバスと同等のサービスを確保することや、乗継割引導入などができるよう、事業者の選定に努めてまいります。